

頑張る 農業法人

福知山市上六人部地区で、2005年に旧村の9集落で組織する任意団体の営農組合を母体にして立ち上げた農業生産法人「有限会社かみむとべ営農」。農家の高齢化が進む中、担い手不足を解消して、地域農業を担う核となるためには、法人による農地集積で効率的な農業経営が必要と、9集落の代表者らが話し合いを重ねて法人化を果たした。

米生産や水稻の農作業受託を中心に、小豆・黒大豆や京野菜などの生産に取り組む。地域農業サポートになることを目標に、加工事業も手掛けて地域の活性化を目指している。

同地域は、同市の中心部から約10kmの南側に位置する。総世帯478戸で、農家は212戸。平坦地と中山間地を有し、約95haの水田中心の農地が広がる。同地域も農家の高齢化が進み、65歳以上が約8割を占め、農作業委託を求め声が多くなってきた。そこで各集落の農区長らで協議を行い、1996年に旧村の全農家の合意を得て農作業受託を行う「上六人部営農組合」を設立した。組合設立後に補助事業を活用してコンバイン1台を導入し、稲刈りの作業受託を行ってきた。

福知山市

(有)かみむとべ営農 農地集積で効率経営



地域農業サポーターとして力を発揮する法人の大槻会長（左3人目）ら役員

は、法人化して利用権設定をするしかない」と各集落の農区長らが決意。法人化検討委員会を設立して、J A京都や中央会、行政などの支援を受け組合の中心となって活躍する各集落の賛同者22人は、法人化して利用権設定をするしかなかった。同社は今年7月に就任した代表取締役の池田茂富さんと取締役6人。オペレーターは12人で同社所有のトラクター1台、コンバイン3台、田植え機1台を駆使して経営に

地域農業サポーターが目標

現在、水稻の農作業受託15haと、利用権設定して農地集積した9.5haのうち6.7haで米を生産してJ Aに出荷する他、地元の酒造会社の依頼で酒造好適米の契約栽培を行う。残る2.8haで京都大納言小豆、黒大豆、小麦の他、J A京都の京野菜部会福知山支部に加入して京野菜の生産・販売に取り組む。

また、エコファーマー認定を受けて生産するニンジンを通市の学校給食に提供し、学校関係者からは地元産の食材として喜ばれている。

前代表取締役で会長の大槻富司雄さんは「農業で法人経営するのは大変なことが多いが、補助事業をうまく活用して運営している。これからは、漬物やみそ、麴(こうじ)などの加工事業を女性グループが行えるよう、J Aと一緒に施設整備や人材確保を進めていきたい」と話す。

▽法人所在地 福知山市三保コグレ572。電話 0773(35)0576 (荻野亮市専務宅)。